

第133回 経営協議会議事録

日 時 令和8年3月19日（木）13時55分～15時00分

場 所 和歌山大学南1号館（事務局棟）3階共通会議室

出席者 本山学長

清水委員、関委員、松田委員、宮下委員（オンライン参加）、矢倉委員

添田、野村、松本、岩田、山形 各理事

（福田監事、内川監事、足立副学長、藤永副学長、山崎教育学部長、金川経済学部長、中村システム工学部長、大浦観光学部長、満田戦略情報室長、南方副理事、中村副理事、小田企画課長、金谷人事労務課長、櫻井財務課長）

欠席者 北村委員、島委員、築野委員

学長から、第131回（令和7年11月21日）および第132回（書面審議）の議事録について確認があった。

議 題：

1. 各種規程の改正案について

添田理事および金谷人事労務課長から、資料に基づき説明があり、審議の結果了承した。

（主な質疑や意見）

・地域手当が引き下げられているのは、和歌山県だけでなく全国的なものか。
→地域手当は20%までの範囲で当該地域の民間賃金を反映する形で国により設定されており、和歌山県や和歌山市は、一昨年までは6%であったが、段階的に4%へ引き下げられた。人事院勧告により、地域手当が上がっている地域も下がっている地域もあるが、和歌山県については引き下げの対象となった。

2. 令和8年度予算案について

松本理事から、資料に基づき説明があり、審議の結果了承した。

（主な質疑や意見）

・収入予算案の受託研究等および寄付金についてはいずれも20%増の見込みとなっており、従来の課題を乗り越え、とても良い方向に向かっていると感じた。これまでの取組の中で効果が見られたもの、あるいは来年度に向

けた取組について伺いたい。
→地道な営業努力であり、産学連携イノベーションセンターのURAを中心に和歌山市内、和歌山県内あるいは大阪府の南の地域の企業が抱える課題と本学の教育研究とのマッチングを進めてきた成果であると考え。企業の皆さまに本学から提案を行うことで和歌山大学に対する理解も深まっており、引き続きこのような活動を発展させていきたい。
・国立大学法人運営費交付金のうち「成果を中心とする実績状況に基づく配分について」は、大学経営をより良くする努力の結果と見ることもできるが、一生懸命取り組んでいても、このように配分額が減少したことは残念である。大学経営改善に向けた地道な取組を続けていただきたい。
・博士号授与状況が対象の19大学中19位であり、また博士号授与率も低い状況である。社会的に重要な分野を支えるシステム工学研究科、観光学研究科の両方で学位授与率が課題となっていることについて、何が原因と考えるか。
→システム工学研究科としては、博士課程に進む学生が少ないことや、情報系の就職が好調な点が一因と考えている。社会人をドクターコースに入れるため、企業にパンフレットを設置する等のプロモーション活動の結果、令和8年度は入学定員を満たしたが、博士の学位をもつと給料があがる仕組みをつくるなど、企業側が変わることも必要。
→観光学研究科は、観光学博士を取得できる数少ない機関であるので社会人学生が多いが、仕事との両立の関係等もあり、3年での修了が難しいケースが多いことが一因と捉えている。加えて、内部進学者の増加も必要と考えており、博士前期課程にもグローバルプログラムを導入する等、適切な研究方法が選択できるよう改善に努めている。
・国の成果指標の是非はあるが、教育研究をより良くするためにどうすべきかを考える上では重要なきっかけになると考える。学生のモチベーションを上げるためにも、引き続き改善を続けていただきたい。
・厳しい状況の中でも予算を工夫し、地域との連携や学内での教育研究の活性化に努めている点が評価され、県内外においてもその取組が浸透していると感じた。今後は和歌山大学を核として県内のアカデミアの力を結集し、更なる成長を期待する。
その他：
1. 価値ある大学 就職力ランキング2025-2026について
満田戦略情報室長から、資料に基づき説明があった。

経営協議会全体を通し、委員から以下の意見があった。

- ・和歌山大学に限らず、大学というものが評価に対して敏感になってきていると思われる。事務方では一生懸命膨大な資料を揃えて評価に臨んでいると思うので、結果を改善に生かしていただくよう取り組んでいただきたい。
- ・学生がこの大学で学べて良かったと思える雰囲気がある大学なので、引き続き頑張っていただきたい。
- ・他大学ではネーミングライツが話題となっているが、和歌山大学においても予算確保の手段として活用はしていないのか。地域との繋がりになるのではないか。

→他大学においても導入が進んでいるが、本学では現時点で実施には至っていない。応援してくれる企業はあると思うので、そういう企業との繋がりを大切にしていきたい。

- ・ 現在、国際情勢の先行きが見通しにくい状況であるが、和歌山大学の学生の留学に大きな影響はないのか。

→文部科学省が指定する危険区域へは渡航を認めず、また経路問題や運賃の高騰等も踏まえ、慎重に判断している。現在、中東地域に渡航している学生はおらず、特段影響は生じていないが、ヨーロッパへの渡航のリスクも検討したい。学生に対しては常に情報を伝えるようにしている。

また、最後に、学長から、今年度末で任期満了を迎える学外委員へのお礼の挨拶があった。

以 上